

<事務局便り>

令和元年度炉物理部会運営委員

氏名	役職	所属
山本 章夫	部会長(任期1年)	名古屋大学
辻本 和文	副部会長(任期1年)	原子力機構
左藤 大介	庶務幹事(任期1年)	三菱重工
北田 孝典	部会等運営委員会担当運営委員	大阪大学
高木 直行	編集委員会担当運営委員	東京都市大学
多田 健一	HP担当幹事	原子力機構
方野 量太	HP担当幹事	原子力機構
奥村 啓介	HP担当幹事	原子力機構
左近 敦士	財務小委員会担当幹事(任期1年)	近畿大学
山本 健士	財務小委員会担当幹事(任期2年)	原子燃料工業
辻田 浩介	編集小委員会担当幹事(任期1年)	原子力エンジニアリング
郡司 智	編集小委員会担当幹事(任期2年)	原子力機構
名内 泰志	セミナー小委員会担当幹事(任期1年)	電力中央研究所
佐藤 駿介	セミナー小委員会担当幹事(任期1年)	電力中央研究所
Van Rooijen Willem	セミナー小委員会担当幹事(任期2年)	福井大学
巽 雅洋	セミナー小委員会担当幹事(任期2年)	原子力エンジニアリング
大泉 昭人	学術交流小委員会担当幹事(任期1年)	原子力機構
阿萬 剛史	学術交流小委員会担当幹事(任期2年)	テプコスシステムズ
下 哲浩	学術交流小委員会担当幹事(RPHA担当)	京都大学
竹田 敏	学生・若手小委員会担当幹事(任期1年)	大阪大学
村上 洋平	学生・若手小委員会担当幹事(任期2年)	日立製作所

(各役職の担当内容については、運営小委員会内規をご覧ください。)

編集小委員会からの御願い

部会報に対するご意見・ご要望などがございましたら、編集小委員会までお知らせ下さい。また、部会報の原稿として、「部会員の声（自由投稿欄）：内容不問で自由に投稿・意見を述べられる場」を常時募集しています。また、部会ニュース（ホームページに掲載）の原稿もございましたらお知らせください。

連絡先：編集小委員会（会報担当）

辻田 浩介 ktsujita[at]neltd.co.jp

郡司 智 gunji.satoshi74[at]jaea.go.jp

[at]はアットマークと読み替えてください。

炉物理部会員の名簿は、日本原子力学会の名簿に基づいて作成しております。学会名簿は、部会報の郵送、部会メーリングリストの発信先 E メールアドレスなどに使用されます。勤務先、メールアドレス等に変更がある場合には、速やかに日本原子力学会に登録情報の変更手続きをして頂くようお願いいたします。

日本原子力学会炉物理部会第 51 回全体会議 議事録

日時：2019 年 9 月 11 日（水）12:00-13:00

場所：日本原子力学会 2019 年秋の大会 J 会場（富山大学五福キャンパス 共通教育棟 2F D22）

【部会賞表彰式】

1. 令和元年度炉物理部会賞授与式

令和元年度炉物理部会賞の表彰が行われた。件名及び受賞者は下記の通り。

(1) 貢献賞

件名：UTR-KINKIを用いた原子力実験研究および教育への多大な貢献

受賞者：近畿大学 原子力研究所

(2) 奨励賞

件名：毒物を用いた水素化物減速ヒートパイプ冷却小型炉炉心の温度反応度制御に関する研究

受賞者：木村 礼（東芝ESS）

件名：国産核データ JENDL-4.0 および CASMO5/TRACE/PARCS を用いた SPERT-III 実験の解析および不確かさ評価

受賞者：藤田 達也（NRA）

件名：定在波型ブリードバーン高速炉の概念研究

受賞者：桑垣 一紀（東工大）

【審議事項】

2. 平成 31 年度予算及び執行状況について（資料 51-01）

財務小委員会担当幹事より資料 51-01 に基づき、平成 31 年度の予算及び 8/23 時点の実績について報告がなされた。例年に比べセミナー残金が多いこと（今年度は、講師交通費が不要であったため）、また、旅費交通費に関し、現時点で支出実績がないが、12 月に実施される RPHA19 を対象に予算補助を募集する予定である旨の説明があった。

3. 令和 2 年度予算（案）について（資料 51-02）

財務小委員会担当幹事より資料 51-02 に基づき、令和 2 年度の予算案について報告がなされた。主な支出が、旅費交通費 32 万円（対象者及び対象会議は今後検討予定）及び部会賞副賞の代金 3 万円であるとの説明があり、了承された。

4. 令和2年春の年会での企画セッションについて（資料 51-03）

学术交流小委員会担当幹事より資料 51-03 に基づき、企画セッションのテーマ案について説明があった。テーマとして、東京電力福島第一原子力発電所における燃料デブリ取り出しを取り上げる予定である旨の説明がなされ、了承された。加えて、部会長より燃料デブリ取り出しについては、安全に対する考え方に対して種々の議論すべき点があることから、今回の企画セッションは頭出しの位置づけとし、後日半日程度のフォローアップセミナーを開催してより深い議論を実施したいとの提案がなされた。これに対し、会場より燃料デブリ取り出しは不確定な要素が多いため、炉物理の範囲外も含めた形のフォローアップセミナーとし、部会としてのコンセンサスを得る必要があるのではとの意見があった。開催時期、場所については今後調整することとし、フォローアップセミナーを開催する方針で進めることとなった。

【報告事項】

5. 第 51 回炉物理夏期セミナー・若手研究会 開催報告について（資料 51-04）

セミナー小委員会担当幹事より資料 51-04 に基づき、第 51 回炉物理夏期セミナーについて開催結果の報告がなされた。今回の夏期セミナーの収支については、講師交通費の支給が不要となったため、余裕のある収支となった旨の報告があった。

6. 炉物理部会人材 WG の活動状況について（教科書サブワーキング）（資料 51-05）

教科書サブワーキングリーダーより資料 51-05 に基づき、教科書の作成状況について報告があった。ドラフト版の作成は概ね完了しており、9/E を目途に部会ホームページにアップロードした上で、11/15 締め切りで部会員からのご意見・コメントを依頼する予定である旨の紹介があった。

7. 炉物理部会人材 WG の活動状況について（データベースサブワーキング）（資料 51-06）

データベースサブワーキングリーダーより資料 51-06 に基づき、データベースの作成状況について報告があった。炉物理夏期セミナーのテキストは、配布に係る郵送費削減のため、今回の春の年会にて DVD にて配布し、その後希望者には郵送または JAEA サーバーからの配布を予定している旨の紹介があった。主要な炉物理文献については、ホームページ上にエクセルの表形式にて公開する予定であり、公開方法のサンプルについて紹介があった。今後、キーワード等の整理を実施した上で公開する予定である旨の紹介があった。

8. 炉物理部会人材 WG の活動状況について（研究炉サブワーキング）（資料 51-07）

研究炉サブワーキングリーダーより資料 51-07 に基づき、炉物理実験施設に対する提案書の作成状況について報告があった。メーリングリストにて部会員に送付済みであり 9/E までに提案書に対するご意見・コメントの依頼があった。加えて、本提案書は、発信先が重要であり部会ホームページで公開すると共に、関係各所に対して説明に行く必要がある旨の議論がなされた。説明に伺う相手、時期等は、今後検討することとした。

【その他】

9. 第 52 回炉物理夏期セミナー・若手研究会 開催について（資料 51-08）

セミナー小委員会担当幹事より資料 51-08 に基づき、第 52 回炉物理夏期セミナー開催テーマ案について説明があった。今回の夏期セミナーは福井大、NEL の共催であり、テーマは、炉物理の基礎を対象とし、日程は 8/3～5、場所については今後調整する予定である旨の紹介があった。加えて、夏期セミナーにおいて取り上げて欲しい内容等について、9/E までに幹事に対して連絡して欲しい旨の依頼があった。

10. 日中韓炉物理会議 RPHA19 の準備状況について（資料 51-09）

学術交流小委員会担当幹事(RPHA 担当)より資料 51-09 に基づき、RPHA19 の準備状況について報告があった。RPHA19 は、12/2～3 に大阪にて開催される予定であり、順調に準備が進んでいる旨の紹介があった。会場より会計処理について学会本部への報告がなされているかどうかの確認があったが、幹事より問題なく処理している旨の回答があった。

11. 国際会議 SNA+MC2020（幕張）の開催について（資料 51-10）

庶務幹事より資料 51-10 に基づき、2020 年 5 月に幕張にて開催予定の国際会議 SNA+MC2020 について紹介があり、積極的な論文投稿の依頼があった。

12. 国際会議 M&C2019 参加報告（資料 51-11）

名大遠藤氏より資料 51-11 に基づき、8 月に開催された M&C2019 について報告があった。全体の参加者は約 300 名で、日本からは約 10 名であった旨の紹介があった。印象的な取り組みとして、炉物理に貢献した著名な研究者の肖像を用いたトランプが Congress kit として配布された旨の紹介があった。

13. 国際会議 ICNC2023 の日本開催について（配布資料なし）

部会長より口頭にて、2023 年に日本で開催予定の ICNC2023 について JAEA と学会の共催としたい旨の提案があった。炉物理部会としては、財政的な持ち出しが無いことを前提として JAEA と共催とする方針が了承された。加えて、炉物理部会としては、プログラム編成等の面で協力していく予定であることを確認した。

【配布資料】

資料 51-01：平成 31 年度予算及び執行状況について

資料 51-02：令和 2 年度予算（案）について

資料 51-03：令和 2 年春の年会での企画セッションについて

資料 51-04：第 51 回炉物理夏期セミナー・若手研究会 開催報告について

資料 51-05：炉物理部会人材 WG の活動状況について（教科書サブワーキング）

資料 51-06：炉物理部会人材 WG の活動状況について（データベースサブワーキング）

資料 51-07 : 炉物理部会人材 WG の活動状況について (研究炉サブワーキング)

資料 51-08 : 第 52 回炉物理夏期セミナー・若手研究会 開催について

資料 51-09 : 日中韓炉物理会議 RPHA19 の準備状況について

資料 51-10 : 国際会議 SNA+MC2020 (幕張) の開催について

資料 51-11 : 国際会議 M&C2019 参加報告

以 上

編集後記

炉物理部会報の発行に際し、まず初めに、ご多忙の中記事の執筆にご協力いただきました皆様に深く御礼申し上げます。

年号も平成から令和に変わり、記念すべき令和元年の部会報となりました。

巻頭言では山本部長から「炉物理研究と鬼十則」という題目でお言葉をいただきました。研究者／技術者として自身の姿勢を振り返る中で、ハッとさせられる言葉が多数ございますので、ぜひ一度ご覧ください。

一つ目の特集記事では、昨年度に引き続き、炉物理分野における巨匠としてチャルマース工科大学の Imre Pázsit 教授に炉物理の面白さについて語っていただきました。ランダム性やノイズ、核分裂の連鎖反応に関して、身近な実例を多く交えた記事となっておりますので、ぜひ一読いただければと存じます。

さらに、2019 年度は日本主催でのアジア炉物理会議(RPHA19)をはじめ、M&C2019、ICNC2019 等、多数の国際会議が開催されており、当該会議参加者の皆様から参加報告をいただきました。今後日本国内で開催される国際会議の運営や、来年度以降初めて国際会議に参加をお考えの学生さんの参考になりましたら幸いです。

また 2018 年度末には、原子力学会賞・炉物理部会賞の受賞が多数あり、受賞者の皆様から記念寄稿をいただきました。本稿が炉物理研究の面白さの新たな気づきに繋がりましたら幸いです。

なお、今年度の部会報では特集記事を設けておりませんでした。今年度は炉物理人材 WG 教科書 SWG 製作の「炉物理の教科書」の発行や、同 WG データベース SWG の炉物理研究データベースの製作等、人材育成関連の活動も活発化した一年でした。私自身、昨年度よりデータベース SWG の一員として活動を進めて参りましたが、今後とも炉物理分野の発展に貢献できるよう、日々精進して参りたいと思います。

最後にはなりますが、部会報「炉物理の研究」の発行に関しまして、今後とも変わらぬご支援ご鞭撻賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

編集小委員会担当幹事

NEL 辻田 浩介